

公立久米島病院だより

手当て
内科 山城 清人

みなさん、「手当て」という言葉をご存じだと思います。ここで述べる手当てとは、給与とは別に支払われる賃金ではありません。医療における「手当て」とは、文字通り手を当てるということです。医療が不十分であった時代には、病気やけがをした際、患部に手を当てて治療したと言われていました。お腹が痛い時、苦しい時など手でさすってもらうだけで症状が和らぐ、そんな経験があると思いませんか。手には不思議な力があるかもしれませんね。私自身も日々の診療でなるべく患者さんに触れ、「手当て」を実践するように努めているところです。

日々変化を続ける医療

時代は日々変化し、医療の世界も日々変化しています。ICT:Information and Communication Technologyの進歩は著しく、インターネットやスマートフォンが生活の一部になっている人

が多いのではないのでしょうか。ポケモンGOが一時期報道されていましたが、そのゲームで普段歩かなかった糖尿病患者が歩きまわるという行動変容がありました。今私自身が行っている従来通りの診療もとても大切ですが、なかなか行動変容に至るまでに時間がかかります。ひよっとすると、ポケモンGOのように別な視点から個人の行動・意識を良い方向へ変える(運動をするなど)ことができるのではないかと感じることがあります。それが医療でも試されてお

り、ICTを活かした医療の展開は重要課題になっています。

LHRシステムでデジタルヘルス研究

久米島ですでに導入されているLHRシステム:「Elong Health Record」もICT活用の一つと言えるでしょう。このLHRシステムを基盤にし、デジタルヘルス機器(スマートフォン・アプリ・活動量計・その他の機器)を用いて、久米島の健康増進を図るデジタルヘルス研究のために、国から沖縄離島

活性化推進事業費補助金として約1億4700万円の交付が決定しました。久米島町役場、町民のみなさんの更なるご協力が必要になります。みなさんの協力があれば、新しい「手当て」の形の一つになることでしよう。詳細を説明する機会を設ける予定ですので、報告をお待ちください。

小枝達也先生を 迎えて 小児科 渡邊 幸

5月に日本の発達障害診療の第一人者であられる小枝達也先生が久米島に来島してください、子ども達の発達相談と講演会をして下さいました!

発達相談は時間の制約上12組限定でしたが、ご家族のみならず学校や保育園の先生など多くの方がご参加下さいました。小枝先生は、まず家庭や学校で困っている事等を丁寧に聞かれ、お子さんを診察されてその背景にあることを判断し、その日からできる具体的な対応法をアドバイスされ、30分と

は思えない濃密な時間でした。また、この時のアドバイスを元にその後も継続して外来通院される中で、多くのお子さんに良い変化が見られています。

講演会はイーフ情報プラザで行われましたが、非常に沢山の方々にご来場いただき、役場から椅子を借りてきて、まだ立ち見が出るほどの大盛況でした。講演は「発達が気になる子の支援」という題でインクルーシブ教育、合理的配慮、気になる子ども達の見方と手だて、などの内容をお話くださいました。その中で印象に残った点についてお話をさせていただきます。

「見てみぬふりは罪」

これは保育園や学校の先生方に対するメッセージで、子ども達の集団生活での様子を早期から保護者と共有しましょうというお話でした。集団生活の中での子どもの姿には、その後の発達につながる大きなヒントが隠されていることがあります。例えば、「斉指示で他の子

と同じに動けない」「じっとすべき時にできない」など、家庭では自然とその子の個性に合わせ対応しているために見えないことが、はつきり見えたりします。そのような事を、その都度先生と親とで共有したり手だてを考えることで、その子が安心して集団生活を送れるようになり、発達障害の早期発見につながる大きな一歩になる、というお話をされました。

まだまだ沢山ありますが、続きはまた次号でお話したいと思います。

★お知らせ★

公立久米島病院の小児科医・渡邊は8月1日〜11月末日まで、上記小枝先生のおられる国立成育医療センターで発達障害等の研修を行うため上京します。その間は小児科:永元医師(8〜10月)、野沢医師(11月)が小児科外来を担当します。

町民の皆様にはご迷惑をおかけ致しますが、ご理解の程宜しくお願いいたします。

公立久米島病院 ☎985-5555
受付時間 / 8時30分〜11時 13時〜16時
休診日 / 日曜日・月曜日・祝日・年末年始

